

### 澤村のアジア事業

## 全体利益の拡大がテーマ

### ベトナム拠点設立も計画

専門商社の澤村（大阪）戦略を一段と進め、ベトナム（中央区）は、「澤村グループ」ナムへの拠点設置も視野に入れた利益に貢献することに東南アジアでも拡大を「ことを最優先にアジ

ア事業の拡大を図る。近年好調な中国事業で特化

田中一志執行役員営業本部長代行によると上海

法人の上海紗華貿易の2019年12月期は黒字で、累積損失も一掃できた。数年前にインナー製品販売から撤退してトリコットの内販に特化した戦略が利益に表れた。トリコットは透湿防水コーティングした裏地と、サポーターなどヘルスケア関連向けが本柱。最終ユーザーは欧米が大半で、欧米からの「日本製がほしい」というニーズを捉えて事業拡大に成功した。

今後も無理な拡大は志向せず、基本的に「特化戦略で」利益を追求しながらシニア拡大を狙う。

一方、タイ法人のサワムラ・トレーディング&タイランドは事業規模こそ7年前の設立以降順調に拡大しているものの、利益面では苦戦が続く。

同国独自の会計制度や入件費といった付帯経費が

かさんでおり、黒字化が当面の目標になる。改善に向けて日本人スタッフの減員と出張による応援体制の強化を図っている。

タイの事業も大半がトリコットなど生地製造販売。協力工場との関係は強固なため、ベトナムへの機能移管もにらみながら、事業の維持拡大、

利益率向上を狙う。

ベトナムでも生地生産のオペレーションを進展させている。トリコットのシャツ地や裏地をニッタク、染工場と協業して生産する事業が拡大中。現状は全て対日縫製品向けだが、将来的には欧米やアジア各国向けも狙う。そのため同国で事務所設置を計画する。